

滋賀の文化情報誌
デュエット

Duett

2015夏 vol.116

特集

国の重要有形民俗文化財指定 甲賀の前挽鋸

新撰 淡海木間撰 60 伊吹山学校登山の写真

INFORMATION STATION 催し案内 2015夏

MYBOOK 自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS サンライズ出版の新刊案内

特集

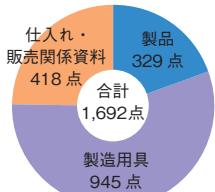
国の重要有形民俗文化財指定

ま え び き の こ
甲賀の前挽鋸

今年、甲賀市が所蔵する「近江甲賀の前挽鋸製造用具及び製品」が、国の重要有形民俗文化財に指定されました。滋賀県内では初の指定です。

同資料を保存・展示している「甲南ふれあいの館」で、甲賀市教育委員会歴史文化財課の長峰透さんと木挽職人の田中新治郎さんにお話をお聞きしました。

撮影／辻村耕司・サンライズ出版
写真提供／甲賀市教育委員会



指定資料の内訳



前挽鋸 (マイビキ)

製材に使用し、木を縦に挽くためのノコギリ。体の正面に構えて手前に挽いて作業するところから、この名となったともいわれている。他のノコギリと比べ幅が広く大きいのが特徴で、一方向にまっすぐ切り込んでいくようになっている。

→右が製品として完成の状態。

←柄(手で握る部分)は、使い勝手に応じて木挽職人が取りつけた。

↓ハオトシタガネ
ノコギリの歯を打ち抜く道具

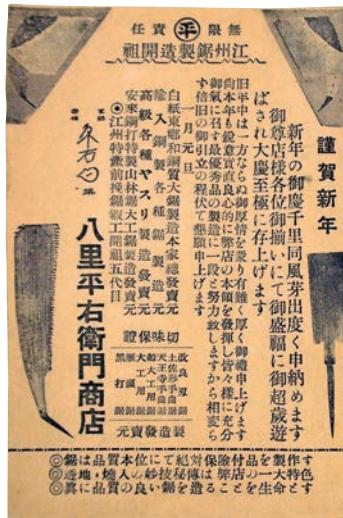


←カンナ
表面をすいて、厚さを均一にするための道具



←今村庄九郎商店の看板
前挽鋸は「前挽大鋸」と呼ぶ場合もある

→八里平右衛門商店が顧客に送った年賀状
こうした販売関係資料も有形民俗文化財に指定された



■甲賀市甲南ふれあいの館

住所	甲賀市甲南町葛木925
連絡先	TEL・FAX 0748 (86) 7551
休館日	月曜日、火曜日、年末年始
観覧料	無料
アクセス	JR 草津線「甲南駅」から徒歩10分／新名神高速道路「甲南IC」から車で10分



↑前挽鋸の技を披露する木挽職人・田中新治郎さん(5月23日、甲南情報交流センター「忍の里」プララで開催された前挽鋸実演会にて)

工場解体にともなう寄贈と総合調査

「近江甲賀前挽鋸製造用具及び製品が国の重要有形民俗文化財に指定されたこと」
ことで、おめでとうございます。まず、それまでの経緯をお尋ねしてよろしいですか。
長峰 昭和61年（1986）に前挽鋸の製造業者の一つだったマルヘイ（八里平右衛門家）の工場が解体されることになり、当時（合併前）の甲南町へ製造用具が寄贈されました。公民館の職員が引き取りに行つて、とりあえず近くの小学校のプレハブに保管されたと聞いています。

——現在展示されている、ふれあいの館は平成3年（1991）に開館していますね。
長峰 ふれあいの館の開館は、前挽鋸の寄贈とは別に進められており、近くの甲南第三小学校の講堂を移築するかたちで出来上

がりました。お年寄りから子どもたちいろいろな生活文化を伝承する、世代間の交流を目的とした建物だったので、いろいろな民具が集められてきました。そこへ、同じ民具だからということ、前挽鋸も收藏・展示されるようになったものです。

その後、平成9年（1997）に前挽鋸の製造職人さんの協力のもと、製造工程の撮影収録を行い、この時は作業部屋を復原しました。そして平成12年（2000）度から3年間にわたって、甲南町教育委員会が寄贈資料もふくめた前挽鋸に関する総合調査を行い、私もいくつかの調査を担当しました。
——その結果、滋賀県の民俗文化財に指定されたんですね。



長峰 透さん

甲賀市教育委員会
歴史文化財課参事

田中新治郎さん

元木挽職人
昭和4年(1929)生まれ
85歳

◀前挽鋸製造職人・今村謙治さん（故人）
平成12年度からの調査の際に、製造工程のすべてが記録された。



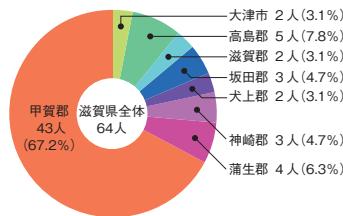
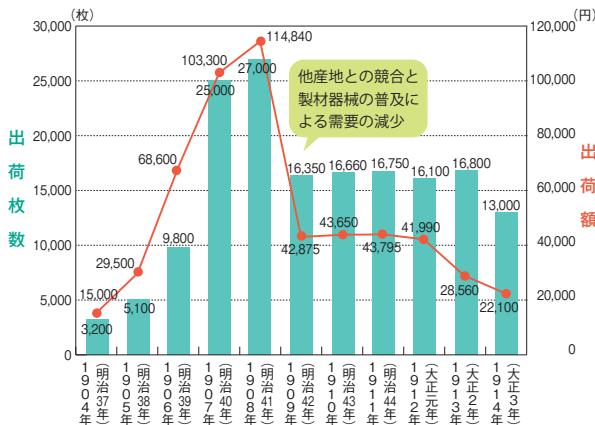
長峰 もちろん、それも念頭にありました
が、何より当時はまだ資料の整理整頓すらできていなかった状態で、ちようと国と県からの補助金も利用できるといので取り組みました。地理の面から、あるいは歴史の面から、あるいは道具史の面からと、多くの研究者がこの道具についてアプローチしたわけです。

当時は、ノコギリをつくる職人さんの今村謙治さん「右写真」という方がご健在でした。使う側は本日も同席いただいた木挽職人の田中新治郎さんがおられて、大急ぎでビデオ撮影などによって双方のお仕事を記録したわけです。

甲賀市の杣川沿い、JR草津線であれば貴生川駅から甲南駅にかけての集落が前挽鋸の産地だったという歴史は、地元では知られたことだったのですか。

長峰 近くにお住まいだったお年寄りは、昔、「とんでんかん」とノコギリを打つ槌音が聞こえていたのを記憶していらっしゃるでしょうが、ちょっと離れた地域の人は、幅広のノコギリは見たことがあり、木挽さんも知っているけれど、地元でそんな大々的につくっていたとは知らなかったという方が多いのではないかと思います。

——古いノコギリは、いつ頃のものが



↑明治41年(1908)発行の『大日本金物名鑑』に記載された滋賀県の金物業者数

←甲賀郡産前挽鋸の出荷枚数と出荷額
滋賀県内務部発行『滋賀県産業要覧』
(大正5年(1916))をもとに作成



↑古式の前挽鋸

江戸時代に製造された前挽鋸は、鋸身の幅がせまく、クビの角度が直角に近いなどの特徴がある。

残っているのですか。

長峰 江戸時代(18世紀)のものが残っていますが、形がまったく違います。展示品の多くのように幅広ではなくて、だいたい15cmか20cm幅で、クビ(持ち手の部分)がきゅっと90度曲がった形をしています。

京都で製造技術を習得して帰郷した人が作るようになったのが始まりとされており、鍛冶の燃料になる松炭が生産され、ノコギリを使う木挽も多かった袖川沿いで製造業者が増えていきました。明治35年

北は樺太・北海道、南は台湾・マニラまで販売

平成12年の調査報告書によると、甲賀産の前挽鋸の分布状況を調べに、長峰さんは北海道などへ行っておられますね。

長峰 行きました。最初、札幌の北海道開拓記念館まで調査に行きました。すると所蔵されている前挽鋸の半数以上が甲賀産のノコギリであることがわかりました。それから帯広も行きました。甲南の深川

市場にあった前挽鋸屋、福本政治郎が明治37年(1904)に帯広に渡って、福本商店の支店をつくるんです。北海道庁が、帯広―釧路間に根釧(ねせん)原野を横断するかたちで鉄道を建設する。大量の枕木などが必要になる。ビジネスチャンスだということで、出店したわけです(明治40年に官設釧路線が全通)。

その後、これは偶然にですが、甲南町に樺太出身の方がおられたことを知ったのです。その方は樺太の造船会社で前挽鋸を使っていたことを覚えておられました。樺太での木の倒し方とか、どのようにして製材したのかとか、聞き取りをしたんです。

報告書によると、販売先は北海道だけではなく、全国にわたっていますね。長峰 大きく分けて二つの販路がありまし

(1902)には13の製造業者によって前挽鋸製造業組合が組織されており、大正15年(1926)刊行の『甲賀郡志』を見ると、甲賀の特産品の中に「大鋸」が出ています。大正初期に滋賀県内務部が発行した『滋賀県産業要覧』によると、出荷枚数は明治41年に2万7000枚に達し、大正元年の製造業者数が12、職工は300人となっています。明治から大正にかけて、あちこちの博覧会で一等賞をとったりして、品質のよさが全国的に知られるようになりました。

まず、既製品を全国各地の金物問屋に卸して販売される場合。木挽職人は小売店で製品を見て購入します。

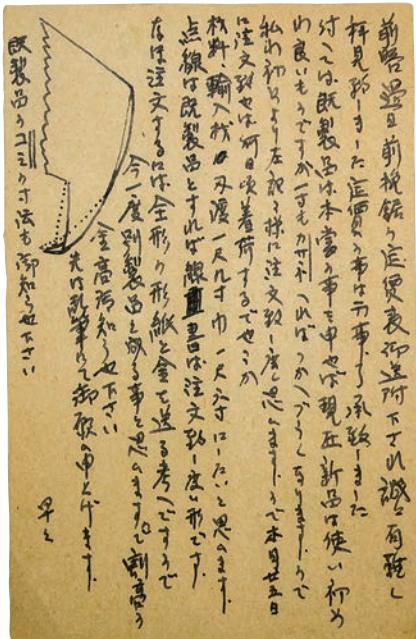
もう一つは、業者名簿や新聞広告などの印刷物を見た木挽職人が個々に甲賀の前挽鋸屋へ注文し、注文の仕様に合わせて製造された製品が発送される場合です。

つまり、オーダーメイドの通信販売ですね。

長峰 最初の注文は購入者が甲賀まで泊まりでやってきて、製品に納得したら2回目、3回目はハガキや封書で注文するようになる場合と、同業者内の評判を聞いて最初からハガキで注文してくる人があったようですが。今回の有形民俗文化財の指定資料には、こうした注文ハガキなども含まれます。注文ハガキには、こんな形という図面が描いてあったり、封書の場合は原寸の型紙が入っているものもあります。前挽鋸屋の側は、こうした顧客の名簿をつくり、毎年、年賀状や暑中見舞を送っていました。

大正から昭和の初期ぐらいが中心ですが、顧客から注文が届くと、それに応じて職人がつくります。そして、丸通(いまの日通)の営業所が、あちこちに散らばっている工場

※…2013年3月に閉館し、今年4月、同館の建物を活用した新博物館「北海道博物館」がオープンした。

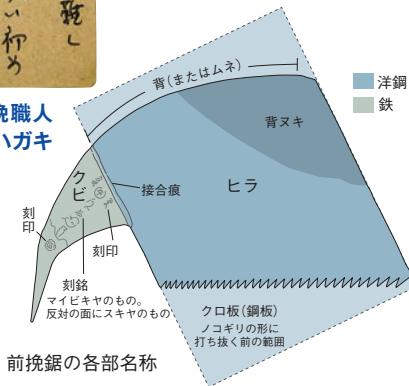


↑福島県須賀川市在住の木挽職人から八里平右衛門への注文ハガキ (昭和29年10月29日)

前略 過日前挽鋸の定価表御送付下され誠に有難く
拝見致しました。定価の事は万事を承致しました
付いては既製品は本場の事を申せば現在新品は使い初め
わ良いものですが一寸もカサネ□ればつかいづらくりますので
私初めより左記の様に注文致し度く思ひますので本月廿五日
に注文致せば何日頃着荷するでせうか
材料、輸入材刃渡一尺九寸巾一尺六寸にしたいと思ひます。
点線は既製品とすれば線書は注文致し度い形です。
なほ注文するには全形の形紙と金を送る考へですので
今一度別製品と成る事と思ひます。割高の
金高御知らせ下さい
先は乱筆にて御願ひ申し上げます。
早々

←前挽鋸の荷姿 (再現)

郵便で発送する場合は大きさの制限があるため、クビの部分折り曲げた。



↑八里平右衛門家の地域別顧客数 (大正14年)
甲南町教育委員会編『近江甲賀の前挽鋸』第4章 前挽鋸の流通 掲載の表をもとに作図

からノコギリを集めて回るんです。大八車に載せて、あるいは自転車で載せて、草津線の深川駅(いまの甲南駅)で荷造りをされて、全国に出荷されました。

北は樺太から、日本の旧領土のすみずみですね。朝鮮半島、台湾、マニラ。それから、中国東北部(旧満州)にも販売されました。韓国の方で、同じ形の前挽鋸を見たという手紙をもらったこともあります。

他の産地のものと甲賀産のもの、何が違いはあるのですか。

長峰「土佐鋸」と呼ばれるノコギリの産地だった高知県の前挽鋸は総鋼といって、ヒラ(歯がついている部分)とクビを一体でつくっていくので、まったく形に変化がありません。

甲賀の場合、ヒラの部分が鋼で、クビの部分が鉄なんです。木挽さんの要求によって、クビを長くしたり、ヒラの背を短くしたり、挽く木の種類ごとのニーズによって、首長のノコギリや引き回しノコギリなどもつくっていたので、非常にバリエーションがあります。だから、オーダーメイドに対応しやすかったともいえるでしょう。

全国の民俗資料館に民具として収蔵されているものも、多いのでしょうか。

長峰 たくさんあります。ただ、それらはすべて木挽さんが使った山仕事用の道具として展示してあるんです。甲賀は製造地として、製造用具が体系的に一式残っています。それが貴重なんです。製造用具と販売の実態を知る資料がセットで残っている。加えて、使い手がおられ、かつては製造業者の職人さんもいらつしやうした。それらの映像記録が残すことができたのは甲賀だけです。

今回の国の指定は、それらが総体として対象になったわけですね。

——甲南町時代の報告書以降、何か新しい発見などはありましたか。

長峰 国の指定とは別に、関連の古文書が甲賀市の指定文化財になりました。貴生川地区の三大寺にあった福本九左衛門家の古文書を調査するなかで、なぜ甲賀でノコギリ製造が始まったか、その起源が確認されたいです。

前の報告書では、「成立伝承」としていいですね。明治後期になって作成された八里家の品評会への出品解説書や滋賀県内務部が発行した『滋賀県之農工業』に、言

前挽鋸の製造工程——黒打ち、透き、歯焼き

——つづいて、簡単に前挽鋸の製造工程を教えてくださいませんか。

長峰 大きく分けると、鋼板をノコギリの形にする「黒打ち」、表面をカンナですく「透き」、歯に焼きを入れる「歯焼き」の3工程があり、多くの製造所では分業で行われていました。

まず、材料の鋼として、本来は地元産の松炭を燃料に鑪などの鍛冶道具を使って「和鋼」を鍛錬して板にしましたが、明治30年代にヨーロッパから輸入された板状の「洋鋼」が用いられるようになり、前半の工程が省略されました。

甲賀の前挽鋸屋の中には、蒲生町鈴にあった奥村製作所から仕入れた洋鋼の鋼板（「クロ板」と呼ぶ）を使っていたところも

い伝えをまとめる形で書かれていたものが、その頃は最古の資料だったからです。

今回の福本家の古文書で、江戸時代当時の現物史料が見つかったのですから大発見です。京都にいたノコギリ屋さんに弟子入りしていた福本九右衛門が独立しようとしたけれども、親方が許さず、九右衛門を訴えて裁判沙汰にした文書（「乍恐御訴訟」寛延3年（1750））もありました。九左衛門は訴訟には負けたのですが、郷里である甲賀に帰ってノコギリをつくることは許可され、この地で製造が始まったわけです。

透き

あります。

板の上に型紙を置いて印をつけ、タガネとハンマーで型にあわせて打ち抜きます。これをタガネでノコギリの形に切ります。それから、槌でばんばんたたいて、全体的にひずみを取っていきます。

——最後まで残された、背の側の黒い部分は何ですか。

長峰 「背抜き」「写真1」といって、ここだけ槌で叩いてわざと薄くしてあります。木を挽いていると、木が両側から締まってきた、ノコギリが抜けなくなるのですが、ここが薄いと比較的抜きやすいんです。大正以降は、荒っぽくベルトハンマーでばんばんと打っていたそうです。

次に、このヒラの一边に鉄製のクビの部

分を接着する工程を「首接ぎ」といいます。そして、「歯落し」「写真2」といって、ハオトシタガネという道具で、ノコギリ歯を打ち抜いていきます。

——ここまでが「黒打ち」ですね。

長峰 次は「透き」「写真3」という工程です。前挽鋸になる鋼の表面が滑らかになるようにカンナで削るんです。木材を削るカンナは手前に引きますが、前挽鋸の場合は手前から向こうに押す、「押し掛け」です。木の場合のオガクズにあたるものをセンクズといいます。

製造工程の記録作成に協力いただいた今村謙治さんは、今村庄九郎商店で「透き」の工程を中心に働いておられた職人さんでした。「クロ板」を奥村製作所から仕入れて、近隣で副業に「透き屋」もしている農家に配って歩くこともしたそうです。

——板の歪みを直して、表面をきれいに仕上げる工程が「透き」。

長峰 最後が「歯焼き」「写真4」で、歯を左右交互に曲げる「アサリ分け」をしてから、熱したヤキバサミで歯を一枚ずつはさみ、冷水につけて急冷させて焼き入れをした後、再びヤキバサミでゆっくりとはさんで焼き戻しをします。最後に銘を入れて完成です。

歯の先端の目立ては、使う木の種類などで違うので、実際に使う木挽さんが行います。

前挽鋸の製造工程

1 背抜き



2 歯落し



3 透き



4 歯焼き



——つづいて、木挽の仕事について、田中さんにお話をお願いします。田中さんの自宅は、代々木挽職人だったのですか。

田中 はい。私で4代目です。甲南地方は木材に関わっていた者が多い土地柄で、「三大寺」木挽。野田、桶屋、杉谷、下駄屋」と、地名に職業をつけて並べた歌を、祖母が歌うのを聞いたものです。

——新治郎さんは昭和4年（1929）のお生まれで、戦後、お父様について木挽の仕事を始められたそうですね。

田中 終戦直後は森林組合の承認を受けたことを示す刻印がなかったら、自家用でも木は使えない。うちは昔から職人で、材木の鑑札を持っていた。切るだけでなく販売も含めた木材関係の一切合切の権限を持っている、看板があったわけです。うちながぶつていたら、べつに怒られない。

——どこから注文があるんですか。

田中 材木屋からもあったし、個人的に補修したりする用材を、自分の所有する山の木を使うから、その施主から来てくれと呼ばれたり。

昔はヒューム管（一般に導水管として用いられる鉄筋コンクリート管）のかわりとして、松の木を前挽鋸で挽いて、くりぬいてから合わして、ねば土で巻いたものを使っていたんです。そういう仕事もあったり。

親父の卯太郎は幅広くやっていたから、京都や大阪にも行きました。京都の北山辺りでは、親父は「甲賀の三羽ガラス」の一人に数えられていたものです。

——お父様が、何人か仕事仲間を引き連れていく感じなんですか。

田中 いや、もう昭和30年代には製材機が普及してきていたから、木挽を習おうとす

る人はいなかった。親父と私の2人です。

——扱われた一番太い木が、甲南町森尻にある矢川神社の御神木だそうですね。

田中 昭和26年（1951）です。本殿のそばの御神木が台風によられて枝が折れ危険だということで、親父に声がかかりました。2人で本殿と拝殿の間へうまく切り倒すのに、3日かかった。切った木を引き取りにきた業者が怒ったんです。坂道を上がってきて目に入った時、玉切した長さよりも直径が太かったから、規程の寸法よりも短く見えたのでしょね。「えらいことをしてくれたな」と怒った。すると、うちの親父が、「看板を揚げて何を言うてるんや。どこを測ってもらっても、6尺6寸ある。なかったら首をやるわ」と怒鳴って。実際、親父の言うとおりでした。

大きすぎるから、この場で全部板にしてほしいということになり、大阪から2人の木挽を連れてきて、私も入れて4人で、板



↑矢川神社の御神木倒木の写真
(昭和26年10月30日 中西写真工芸社撮影、矢川神社蔵)
右端が卯太郎さん、右から2番目が新治郎さん

にアゲタわけです。

——知らない者からすると、前挽鋸は幅の広い、不思議な形に見えます。古いものは幅がせまく、だんだん面積が広がっていったのは、太い木を扱うからですか。

田中 幅が広いと、ぶれもないし、サヤもいい。

長峰 重みで差が出るので、幅が広い方が、ゆがまずにまっすぐ挽けるということなんです。田中 うん。おとなしく下がっていくということだな。ゆがまないで。

——重量があった方がいいわけですね。

田中 それと、ノコギリは減りが早いから、サヤを大きくする意味もあったと思う。

——使う側から、製造者に、ここをこうしてとか注文することもあったのですか。

田中 注文しました。木挽はみんな、コシといって、張りを見るわけです。全体がしおっとして、べこばこになったら、ぶれる可能性があるので。両端を持って、こう曲げると、平均に仕なる。裏返してみても同じように、平均に仕なる。コシが抜けていると、挽いている最中にぶれる。

長峰 全体にうまくたわむものでないと駄目なわけですか。

田中 裏表を見て検討して、ぶれても大丈夫だというコシにしておかないと。

——前挽鋸で横に挽かれた木の断面の写真をみると、本当にきれいですよね。

長峰 きれいですね。

——一度挽いただけでこうなるというのは、信じられないぐらい。

田中 2mを超す大きな木を、薄い板に仕上げますでしょう。一枚上げようと思っても、3枚か4枚上がってくる。

長峰 それだけ吸いついてくる。

田中 「木挽さん、挽いたらへんじやないか」と、業者が勘違いして怒ったこともあ

前挽鋸による製材の工程

1 伐木

おのの斧、テマガリ（細身のノコギリ）、ヤ（樫）などを用いて、決めた方向に切り倒す。



2 玉切

切り倒した木を枝打ちした後、上面と両側面の真を定め、真と直行するようにテマガリで切断し、丸太状に等分する。

3 大斫

「コロ」と呼ばれる原木の四面を、ハツリ（幅広の斧）で粗く削っていく。

4 原木の擔付

鷹口とロープを用いて、コロを移動させる。

5 墨付

コロの木口の「真墨」を定めるため、墨壺を下げ振りを用いて垂直線を見通し、差し金と墨サシで墨付けする。



6 挽割

木口と側面の墨線で形成される面を思い描きながら、前挽鋸を挽く。



7 手入

歯の切れ味を保つため、ヤスリによる目立てを1日に数回は行う。



る（笑）。

木の種類による違いもあるのですか。

田中 あります。けれど挽く時の軟らかい、堅いは、目一つです。同じスギでも、軟らかい木もあるし、堅い木もある。ヒノキでも、艶のいいやつは堅いし、ぼおつとするような木目が出るやつは軟らかいし。

長峰 堅い木の方がきれいに切れるとか、そういうわけでもないのですか。

田中 いっしょ。それは目立てだけ。

「木挽」と呼ばれるには、木に関しては何でもしなないといけない。

一番難しい作業はどこですか。

田中 難しいのは、「墨付」かもしれない。「木取り法」といって、丸太（原木）の状態を見て、どういう材を何丁とるか考える。木には腹と背がある。それを自分の頭の中で表面から見ている形に絵を描いて、墨を打つ。そうしたらお客さんが見て、「アシがいい」、つまり仕上がりがきれいだと評価される。大工さんからもそれをやかましく言われた。けど、これが一番難しい。長峰 木の目を見て、どこに木目が乗るかとか、乗らないとかで。

田中 同じように反っていても、左が低い方が多いか、右が低い方が多いか、アール

木挽の技術は、地域ごとに違うのですか。

田中 だいたい決まっています。縦で挽くか、横に挽くか。昔の写真や絵を見ると、木の上に乗って挽いているものがありますが、それはうちの親父は嫌だったんです。木の上に乗ったりするものじゃないと、怒るぐらいだった。木を返しても構わないから、下から入れる。そうじゃなかったら、横から入れる。踏みつけて上から切るというのは、かわいそうだと。

分して、同じようになるまで起こせば、真ん中にすつといい目が出る。それが難しい。親父は説明しないで、「人の技を盗め、技を盗め」と言うばかりだったから、いまだに私もわからないところがたくさんある。南に面していた、日光がよく当たっていた側が、どうなっているんですか。

田中 やっぱり目もきれい。寒暖が反映して、北側の方は、どうしてもくちやくちやくとした目があるし、暖かい年だと、ぱつと早く大きくなる。それを見るのが難しい。山の木の場合、地面の傾斜が影響するのに、まっすぐ植えておくので、反って上がっ

てくる。すると、樹脂分の多い「油木」がたくさんできて、縦割れしたり、あるいは横に曲がったりする目ができてくるわけです。初めからそれを考えて植えれば、正直に起きて、いい木が立ってくる。本当にいい木ができるようにする植栽も難しい。

植栽にも関わっておられたのですか。

田中 植栽もしていました。山の中に入ると。植栽も枝打ちも、「してくれ」と言われると行きました。

長峰 田中さんの家は材木商としてやっておられたから、枝打ちから植栽まで全部。

田中 「木挽」と呼ばれるには、木に関しては何でもしなないといけない。

前挽鋸を挽く人が、植栽から関わるというの、品質の点ではベストでしょうね。現在、田中さんの技術をどなたか継承する方はいらっしゃらないのですか。

田中 ない。こんなしんどい仕事をする人は、もうない。

長峰 ノコギリの好きな方々が集まった「大鋸の会」というグループの皆さんが、5月24日に田中さんを囲んで、技術を習いにいらっしゃる予定です。

本日は長時間、ありがとうございました。
(2015.5.14 甲南ふれあいの館にて)

伊吹山学校登山の写真

米原市伊吹山文化資料館
高橋順之

「十一時が近づいた時、私達はあたりの静寂を破って宿を立った。(中略)登山者の群れは多かった。山はまるでお祭り気分だった」(昭和4年(1929)大垣高等女学校交友会誌)。

明治時代、ヨーロッパから近代登山が伝わり、大正時代には、余暇時間を充足する一方途として登山ブームが到来、「登山の大衆化」が始まります。伊吹山の登山口の上野(米原市)では入山料を取り、希望者には案内人を付けて、多くの人を伊吹山に誘いました。

「対山館」は、大正14年(1925)に上野に設立された、タイル張りの百草風呂を売り物にした旅館です。伊吹山文化資料館には、対山館宛の書簡類が約1700点保存されています。このなかに、戦前・戦中の学校登山に関するものがたくさんあり、この時期の学校登山のようすがわかります。

彦根高等女学校(現、県立彦根西高等学校)は、明治19年(1886)創立の全国的にも古い女学校で、大正3年(1914)7月29日・30日に第1回伊吹登山を実施しています。校長以下職員5人は生徒12人を引率して山麓の春照(米原市)に1泊して夜間登山をおこないました。以後、大正7年、昭和2年、10年から18年まで、終業式終了後、第5学年百数十名が恒例の夜間登山をおこないました。伊吹山には、夏季休暇が始まる7月下旬に、愛知・岐阜・三重・滋賀・京都・大阪・兵庫各府県の学校が訪れています。そのほとんどが夜間登山です。

学校登山は、当初、野外学習や夏季休暇の有効な利用法として導入されましたが、日中戦争(昭和12年)が勃発すると、登山の目的が戦争遂行のための心身鍛錬や忠君愛国精神の高揚に変容していきます。やがて、旧制中学校などの男子生徒は、軍要員となるべく軍隊宿泊訓練などに明け暮れ、登山の主役は、銃後を守る婦女子の心身鍛錬等を目的とした高等女学校になっていきました。伊吹登山が戦争に利用されたのです。

最寄の近江長岡駅はいち早く明治22年(1889)に開業しており、交通至便なことから、古くから多くの学校が学年単位で訪れ、それを受け入れる登山環境も充実していました。伊吹山は、夜間登山を中心にいまでは想像できないほどの多くの登山者で賑わっていたのです。

↓滋賀県立愛知高等女学校の生徒たち
(昭和初期か、伊吹山頂の測候所前にて)



8月15日(土) 午前10時30分～

「戦時中の女学生のくらし」

話者：西澤美津子さん

■平和を祈念する日

8月15日(土) 正午～午後8時15分

平和セレモニーに始まり、館内「平和のあんどん」点灯まで、朗読会・平和学習講座・人形劇・戦時食の体験などさまざまな催しを行います。

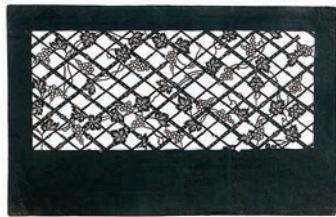
お問い合わせ先：TEL 0749 (46) 0300

村の紺屋さんの型紙

7月18日(土)～9月27日(日)

甲賀市土山歴史民俗資料館

専業の染物屋である2軒の紺屋には2000枚もの染用の型紙が残されていました。高度な技術によって彫られた美しい文様の型紙の他、型紙を用いて染められた布や紺屋で使われた道具を紹介します。



まがき
↑籠に葡萄 (甲賀市蔵)

入館料：無料

休館日：月・火曜日

お問い合わせ先：TEL 0748(66)1056

おじいちゃん・おばあちゃんの一年 ～ちょっと昔のくらし～

7月25日(土)～12月20日(日)

甲賀市甲南ふれあいの館

昭和20～30年代の農家の暮らしを、かつて身近にあった道具を通して紹介します。当時使っていた方には懐かしく、初めて見た方には新鮮に映るのではないのでしょうか。この機会に伝えていきたい大切な何かをみつけませんか。

入館料：無料

休館日：月・火曜日、8月12日～14日

お問い合わせ先：TEL 0748 (86) 7551

土・祈り・イメージーション… 岡本太郎の言葉とともに展

開催中～9月23日(水祝)

滋賀県立陶芸の森

日本の美の根源を伝統の中から探り、芸術とは生きることそのものだと思つた岡本太郎。絵画とともに岡本みずからも傾倒した土の芸術を、6つのシーンからたどります。



↑岡本太郎「犬の植木鉢」

1954年 (滋賀県立陶芸の森陶芸館蔵)

休館日：月曜日(7月20日、9月21日は開館し、7月21日振替休館)

入館料：一般600円、高大生450円、中学生以下無料

お問い合わせ先：TEL 0748(83)0909

滋賀県民の15年戦争

開催中～9月27日(日)

滋賀県平和祈念館

終戦から70年を経た今年、先の戦争が滋賀県民にとってどのようなものであったのかを体験談と品物を通してふりかえり、当時の苦難を思うとともに、現代の平和の尊さを改めて確認します。

休館日：月・火曜日(祝日にあたる場合は開館)、ただし7月20日～8月31日は無休

入館料：無料

■戦争体験を聞く会

8月13日(木) 午前10時30分～

「14歳で死を覚悟した終戦の日の夜」

話者：小齋伊佐雄さん

午後1時～

「昭和の戦争と反省した平和日本」

話者：北岡吉朗さん

8月14日(金) 午前10時30分～

「大戦中の不思議な出会い、めぐりあわせ」

話者：森田景二さん

竹村定治コレクション展 鉄道模型の世界

開催中～8月16日(日)

栗東歴史民俗博物館

栗東市在住の竹村定治さん(故人、元大阪駅助役・関西鉄道学園講師)から寄贈された3000点を超える鉄道資料コレクションを、栗東歴史民俗博物館と市民学芸員の会が調査・整理した成果から、鉄道模型を中心に紹介します。



←蒸気機関車(C62形
2号機)の模型

休館日：月曜日(7月20日は開館し、7月21日振替休館)

入館料：無料

お問い合わせ先：TEL 077(554)2733

片桐且元

—豊臣家の命運を背負った武将—

開催中～8月31日(月)

長浜市長浜城歴史博物館

長浜市須賀谷町出身の武将・片桐且元の没後400年を記念した特別展。浅井氏滅亡後は秀吉から信頼され、「賤ヶ岳七本槍」として名をかせ、秀吉没後は各地の諸寺社修復にあたるとともに豊臣家重臣としてその存続に尽力、しかし、大坂の陣では家康の策謀により東軍として豊臣家に対立した且元の人物像に迫ります。



←片桐且元像(慈光院蔵)

休館日：期間中無休

入館料：大人400円、小中学生200円

お問い合わせ先：TEL 0749 (63) 4611



ざっくばらん
雑口罵乱⑧

DANWASHITSU 企画／編集
A5変形並製本 総181頁 1000円＋税

滋賀県立大学で建築を学ぶ学生が企画・運営を続ける講演会のレクチャー集第8号。今号のキーワードは「モノづくりとの闘い」。被災地をはじめ、各々のフィールドで活躍している建築家は何を考えているのか？

創作ダンス! はじめの一步

森川みえこ 著

A5判並製本 総80頁 900円＋税

リズム感がよくなる! 心も体も元気になる! 自分磨きにも役立つダンスについて、実際に大学で指導にあたる著者が、その魅力とコツを初歩からやさしく伝授。中学校保健体育の必修科目「ダンス」の副読本としても最適。



ガン患者のための般若心経

発想の転換を求めて

桂川道雄 著

A5判並製本 総264頁 1200円＋税

「亦無無明尽」は、「ゆったり、のんびり、心の洗濯も必要」の意。骨髄性白血病が見つかり、ガン治療と骨髄移植を経験した著者が、ガン患者に向けて説きほぐす、元気の出る般若心経!



薔薇の詩集

女たちへのレクイエム

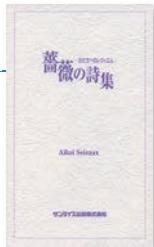
Aikei Seizaax 著

B6判変形並製本 102頁 600円(税送料込)

問合先 TEL 0749-22-0627(サンライズ出版)

ばら 薔薇/私は重ねて/その豊穡を愛す /それは/太古の深き深き/想いなれば

佐渡島出身の著者が、1977年までに北海道札幌で書き記した青春の唄。1996年初版の2刷。(2015. 6. 2刊)



My Book

自費出版物の紹介

童心詩・詩願

ご縁うれしや

廣瀬童心 著

A5判並製 総272頁 頒価1000円

問合先 長浜市新庄寺町100-26(著者)

人生/二度なし/今/ときめいて/真剣勝負
元中学校教諭の著者らが発刊する月刊誌「まなざし」の創刊30周年を記念して、同誌に連載してきた詩をまとめた。(2015. 4. 25刊)



写真でふりかえる伊吹山物語

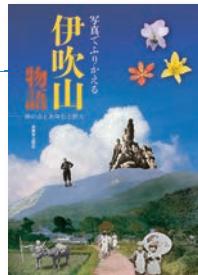
神の山とあゆむ上野人

米原市上野区 発行

A4判並製本 総94頁 頒価1000円

問合先 伊吹山文化資料館(TEL0749-58-0252)

掘削される山肌、廃止されたスキー場やセメント工場、激減した民宿。明治・大正期以降の写真約500点を中心に、近代の伊吹山と登山口の上野集落の歩みを紹介。(2015. 3. 31刊)



ふるさと伊部

小谷山の麓の旧城下町・宿場町

小谷伊部自治会 発行

B5判並製本 総224頁 頒価3000円

問合先 伊部史発行代表者宅(TEL0749-78-0475)

小谷城の城下町、北国脇往還の宿場として栄えた長浜市湖北町伊部。大河ドラマの舞台として脚光を浴びた近年の活動などを含め、集落の歴史をわかりやすく解説。(2015. 6. 21刊)



**まぼろしの山
近江の国 彌高山**

山寄仁生 著

B5判並製本 総40頁 非売品

問合先 米原市弥高360-1(著者)

伊吹山に連なる「弥高山」は、明治以降、地図から名が消えてしまったが、奈良時代に役小角が弥高寺を開いて以来、京極氏の城が置かれるなど、歴史上に名を刻んできた。(2015. 6. 10刊)





かつもと 片桐且元

豊臣家の命運を背負った武将

長浜市長浜城歴史博物館 編
B5変形並製本 総136頁 1800円＋税
浅井家に小谷落城寸前まで仕えた片桐且元は、秀吉からも信頼され、「賤ヶ岳七本槍」としても名を馳せ、豊臣家重臣として、淀殿と秀頼を支えた。没後400年記念の特別展解説図録。

陸軍八日市飛行場

戦後70年の証言

中島伸男 著

A5判並製本 総286頁 1600円＋税

近畿有数の軍事基地であり、太平洋戦争末期には米艦載機の標的ともなった陸軍八日市飛行場は、地域の人々に何をもたらしたのか。元航空兵や住民からの聞き取りと記録資料で綴る。



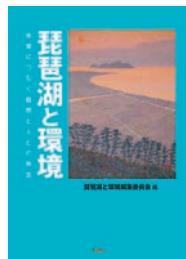
琵琶湖と環境

未来につなぐ自然と人との共生

琵琶湖と環境編集委員会 編

A5判並製本 総456頁 3200円＋税

開学から20年を経た滋賀県立大学環境科学部の教員・学生らが、「キャンパスは琵琶湖」を合い言葉に、おのおのの研究をわかりやすく紹介してきた中日新聞連載を収録。琵琶湖にまつわるさまざまな話題が詰まった一冊。



滋賀県立大学環境ブックレットA フィールドワーク心得帖 新版

滋賀県立大学環境フィールドワーク研究会 編

A5判並製本 総112頁 1000円＋税

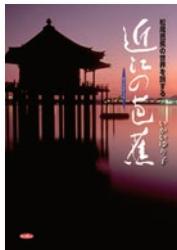
実地調査に必要なことは？もの見方や服装、荒天時の対処法、資料収集やインタビュー・レポートのコツは？その成果を発信するにはどうすればよいのか？上下巻のベストセラーが全1冊新版に。



表紙写真 甲賀市甲南ふれあいの館の前挽鉤関連資料の展示

右手前は木床の上でツチで叩いて歪みをとる「コシナオシ」と呼ばれる工程、左奥はカンナをかける「透き上げ」と呼ばれる工程。流れる汗を頭のハチマキで止めて作業しました。

編集後記 前挽鉤を初めて見た時は、デフォルメして描かれた漫画の中のノコギリみたいだなと思ったのですが、製造工程と使用方法を知ると合理的な形なのだ納得。他県の民俗資料館で甲賀産を探してみるのも一興です。(Ⓢ)



近江の芭蕉

松尾芭蕉の世界を旅する

いかいゆり子 著

A5判並製本 総274頁 1800円＋税

近江を愛し、近江に眠る松尾芭蕉は、生涯に981句を詠んだ。そのうち近江で詠んだ102句すべてを解説し、句碑61基を写真と地図をまじえて紹介。文学散歩へとigoなう。

岡本太郎、信楽へ

信楽焼の近代とその遺産

信楽焼振興協議会 編

四六判並製本 総232頁 1500円＋税

現代芸術の巨匠・岡本太郎が、信楽と縁深い関係にあったことは、あまり知られていない。陶产地・信楽の歴史をひもときながら、〈太陽の塔〉などの代表作と信楽とのつながりを明らかにする。



京都府レッドデータブック[普及版]2015

京都府環境部自然環境保全課 企画

A5判並製本 総214頁 1200円＋税

2002年に「京都府レッドデータブック」が作成されて10年余、今回選定された「京都府レッドデータブック2015」収録種の中から、特に京都府を特徴づける野生生物種290種、地形地質・地域生態系38件を掲載。



熊野古道伊勢路を歩く

熊野参詣道伊勢路巡礼

伊藤文彦 著

A5判横並製本 総120頁 2000円＋税

江戸時代、伊勢神宮参拝を終えた旅人が通った熊野三山への道（一部は世界遺産に指定）、全長約200kmの詳細地図と名所解説で構成した実用ハンディガイド。



Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

〒522-0004 滋賀県彦根市鳥居本町655-1

サンライズ出版株式会社 Duet 編集部

TEL (0749) 22-0627 FAX (0749) 23-7720
(振替) 01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。

<http://www.sunrise-pub.co.jp/>

お申込先